

平成 28 年度
事業報告

社会福祉法人
徳充会

目次

【障害者事業局】

地域活動支援センター（さいこうえんの障害者生活支援センター）	1
青山彩光苑リハビリテーションセンター	3
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜	5
青山彩光苑ライフサポートセンター	6
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター	9
石川県精育園	11

【高齢者事業局】

エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦	13
エレガントたつるはま	16
もみの木苑	17
ふれあいの里	18
ローレルハイツ恵寿	19

【事務局】

健康増進センターアスロン	20
総務部	21
経営企画部	22
アドボカシー室	23

【常任・事業推進委員会】

教育研修委員会	24
福利厚生委員会	24
事例研究大会	26

障害者事業局 青山彩光苑
さいこうえん障害者生活支援センター

1. 相談支援事業

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談件数	195	225	249	246	203	191	165	167	227	289	312	297	2766
計画相談	258	257	258	262	260	258	258	259	260	260	260	269	/

(1) 利用者の能力(ストレングス) 支援者の発想力を活かした支援
結果: 8 件アセスメントツールを使用(うち 4 件新規計画相談ケース) 4
ケースを課内サービス会議にて事例提供、検討実施

(2) 相談支援体制の充実
1 月より相談支援専門員 2 名 3 名体制とし特定事業所加算を取り、実施。
・相談支援事業所連絡会参加 12 回・自立支援協議会参加 37 回
・七尾特別支援学校進路指導説明会への参加、高等部の相談支援。
結果: 特学進路指導説明会へ参加 3 年生の相談支援 2 件

(3) 職員の資質向上、業務改善
相談支援における導入期の効率化
相談支援の流れについてマニュアル作成を行ったが、全ての職員(地活・なかぼつ)が相談員と同等のレベルで相談受付出来ないことから、マニュアル導入を取りやめる。

相談支援事業所連絡会の開催
・相談支援事業所連絡会 12 回開催(委託: 8 回、特定: 4 回)
研修参加
結果: 相談支援従事者初任者研修、発達障害支援上級研修、専門分野別研修(障害児研修、サビ管との連携・障害高齢者支援)、相談支援専門員協会主催研修

2. 地域活動支援センター事業

(1) 利用者の能力(ストレングス) 支援者の発想力を活かした支援
個人の能力、生活力を高めるプログラム、
1) コミュニケーション支援 挨拶、対人マナーを学ぶ。
機関紙オンリーワン配布 1 回/2 ヶ月配布 25 ヶ所へ配布(内 利用者 7 ヶ所配布)
2) 精神障がい、発達障がい支援プログラム
『しゃべり場』 2 3 回開催 延べ 8 5 名参加
個々の社会生活における苦手感改善をテーマに SST の要素を取り入れ支援実施
3) 発達障がい、知的障がい支援プログラム
『クッキング』 2 2 回開催(内調理実習 1 1 回)
4) 体験交流 11/19 七尾特別支援学校すみれ祭(もこもこ体験)参加者 6 名
5) クリーンデイ 2 回/年(6・10 月)実施 延べ 39 名参加

6) センター内外での行事

花見会(4/8 希望の丘公園 23名参加) バーベキュー(10/14 中能登古墳公園 21名参加) クリスマス会(12/20 19名参加) ボーリング大会(3/13 鹿島クアトロブーム 20名参加)

7) 健康・福祉・就労に関するセミナーの実施

個別支援の充実

- 1) 強化ケース4ケース(4ケース中3ケースにて目標達成)
- 2) 強化ケース4ケース(1回/3ヶ月モニタリング実施 サービス会議にて15回ケース検討実施)

3) サービス会議の実施 22回(24ケース)実施

ニーズ、満足度調査を12月~1月にかけて実施。27名が回答。

(2) 地域の各機関との連携強化

サービス担当者会議への参加、医療機関など関係機関と情報共有し、連携強化。

計7回参加

(3) 職員の資質向上、業務改善

課内勉強会 11回開催

作業工賃：782,374円(工賃 前年比36,258円増)

もこもこ：年間売上83,865円。工賃収入の10.7%。

支援センター清掃：年間167,300円。工賃収入の21.4%。

3. 就業・生活支援センター事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
登録者	236	238	240	243	247	252	252	256	256	257	259	270	270
相談	利用者	211	220	227	275	211	208	174	172	131	175	120	2349
	事業主	42	48	24	47	39	21	38	47	30	48	40	468
相談合計	253	268	251	322	250	229	212	219	161	223	160	269	2817
準備訓練実習	1	1	1	1	0	2	2	3	1	1	0	7	20
就職	14	1	1	3	3	1	2	4	0	2	2	2	35
定着支援	41	46	29	43	37	15	23	26	18	28	43	33	382

(1) 利用者の能力(ストレングス) 支援者の発想力を活かした支援

職場定着支援を強化

1) 職場訪問による定着支援 述べ382件(目標360件 前年度比138件増)

2) 在職者向けサークル活動「Yell(えーる)」の開催(6回/年)延べ105名(前年度比23名増)

就業支援 就職件数35件(達成目標25件 前年度比7件増)

1) 障害者・事業主からの相談 障がい者：2349件 事業主：468件

2) 就職に向けた準備

求職者向けサークル活動「スキップ」の開催(月1回) 延べ137名(前年度比30名増)

ジョブコーチ支援制度の活用 新規 4 件 (達成目標 新規 4 件)
3) 職場実習の斡旋 職場実習件数 20 件 (達成目標 25 件 前年比 ±0 件)

(2) 地域の各関係機関との連携強化

自立支援協議会「チャレンジワーク(職場体験実習)」 3 件実施(達成目標 10 件 前年比 3 件減) 協力企業数 13 社(目標 14 社 前年度比 1 増)
就労移行等連携調整事業 就労アセスメント 9 件実施(奥能登圏域)

(3) 職員の資質向上・業務改善

- ・障害者就業・生活支援センター経験交流会議(愛知県)参加
- ・就労支援基礎研修(総合研修センター主催)講師派遣

青山彩光苑リハビリテーションセンター

1. 方針

利用者の社会生活力の向上や社会参加の推進、多様化するニーズに応えるために、専門性を高め、地域での生活や活動を具体的にイメージできるように支援する

【3S プラス 5S で 8 つの柱】

シンプル、スピード、スマート 整理、整頓、清掃、清潔、躰

2. 機能訓練 支援方法

- (1) 入所から地域への移行に際して、単に生活の場の変更ではなく、理想とする生活を明確にした上で、利用者自身の社会生活力を高めるための支援を展開する。

サービス会議の充実

強化ケースを定め利用者参加型の会議を開催する(6 ケース)

結果：3 ケース実施

定期的なアセスメント(効果測定：3 ヶ月に 1 回)モニタリングの実施

結果：3 か月ごとに効果測定(のべ 231 ケース)

- ・モニタリングを実施(のべ 295 ケース)
- ・表記方法の変更
- ・効果測定後の説明機会を早めた
- ・結果をグラフ化しサービス会議に活用

機能面に取り組んだ訓練(脳賦活訓練、身体機能訓練)

- 1) 理学療法(身体機能維持・改善訓練、移動訓練)

結果：実施利用者 45 名

- 2) 作業療法(知的・精神機能向上訓練、コミュニケーション訓練)

結果：作業療法：個別プログラム実施者 実人数 32 名(新規 1 名含む)

コミュニケーション訓練：集団6名 個別1名実施

3) スポレク・チャレンジスポーツ・種目別トレーニングの実施

結果：スポレク：風船バレー・風船バトミントン等を実施

実人数：37名

種目別トレーニング：各種大会に合わせて実施

生活面に取り組んだ訓練

1) 服薬管理、衛生管理、栄養管理などの指導、セミナー・実態調査
(隔月)を実施する

結果：服薬管理：方法検討・変更5名実施

衛生管理：感染予防の強化期間(10月~3月)ポスター掲示

栄養管理：毎月1回セミナーを開催。のべ469名参加

2) 移行する生活場面に即した動作訓練の実施

(現地評価・訓練の徹底・体験ルームの活用、サービス模擬利用等の“生活実感”を重視する)

結果：1名実施

復職・就職・福祉的就労の実現現場実習などへの同行支援及び評価

結果：5名就労継続B型(ワークセンター)を実習。4名利用開始

(2) 利用者が地域で活動でき楽しさや訓練成果を実感できるように支援する

風船バレーボールを通じた施設間交流・学童交流企画の実施

1) 学童交流には福祉体験(車いす体験)も兼ねて実施する

結果：5校に対して声を掛け、高階小と実施

2) 施設間交流は練習試合形式で実施する

結果：松原病院・支援センターと実施

利用者単独型旅行企画の提案

(全国のバリアフリーセンターの活用：2名以上)

結果：2名の利用者が県外旅行を実施した

各種スポーツ大会やイベント参加(参加人数表記)

県スポ	県風船	市風船	県FD	市FD	県ホクリンク	金沢ウ
15	16	17	9	11	3	4

1) 万葉の里マラソン(3月)ウォーキング 5kmへの参加(年間強化GW)

結果：8名

ノルディックウォーキングの提案：3名活用

3. 組織づくり

サービスの質を高め、障害及びニーズの多様化に対応できる組織作り

(ア) 施設内外の研修参加を促し質の高いサービスで支援する

全国研修会参加・発表	2名	2名
中部ブロック研修・発表	2名	2名
県社協研修参加	5名	3名

(イ) 支援体制及びマニュアルの見直し・周知(年2回/4・9月)

結果：随時更新を行った

障害者権利擁護委員会の設置

結果：ライフサポートセンターと共同開催とし実施した

4.環境整備

- (1) 部屋替え：年1回 6月実施
- (2) マットレス交換：古いものを処分し、18枚購入し交換実施
- (3) 車いすのメンテナンス(年1回): 年2回実施
専門業者によるメンテナンスを実施した。

5.渉外活動

- (1) ホームページの適宜な更新

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
回数	1	2	4	3	2	3	4	3	4	4	2	2

6.その他

- (1) サマーボランティア・介護等体験実習(県社協)の受け入れ
福祉の仕事マッチングサポートセンターより 1名受け入れ
- (2) セラピスト実習生の受け入れ
PT: 2名 OT: 1名
- (3) 自立支援協議会への参加 ぐらしの部会に参加

青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

【テーマ】 前進 ~ 一步下がって二歩進む ~

【内容及び方法】

『経営管理部門』 確実な事業運営(予算管理と分析、周知)

確実な受注発注については職員間の連絡を密にし、適正な在庫を管理し、顧客の要望に対応できた。予算管理に関しては、部内会議用に毎月更新したが、分析にまでは至らなかった

『生活支援部門』 利用者の“働く・暮らす”を応援する

平成28年度は、8名の新規利用者と契約を受結。各機関と連携を密にし、利用者状況、利用希望者の早期情報収集をし、1名が一般就労、1名が就労継続支援A型へと移行した

『就労支援部門』《各事業別重点取り組み内容》

「土耕」 段取り8分にて3Mの実行と期間目標を定め前進する
人員不足により、期間前半に作業遅れがみられたが修正に努める
期間後半は盛り返す事ができた。

「水耕」 スタッフの状態をよく把握し先見の目にて対処していく
システムの故障等により、栽培自体が成り立たず、スタッフにおいては他部署への応援という形での支援がおおくなった。が、栽培上の病害虫等においては、早期発見が養われ、来期に結び付ける+

「リサイクル」 安定した作業提供と新規開拓

機械等の故障による作業遅れはあったが、予定通りの進捗であった
新規作業は 29 年度より家具等解体作業を導入する

「軽作業」 信頼度の向上(品質向上)と一歩進んだ作業の実施

スタッフ個人の作業のはばを広げ、新規作業にも対応できるように努めた
が品質がついてこず、立ち止まるが多かった

「洗濯」 環境に対応した作業マニュアルと経費削減

ヘルスケア全体の利用者様の衣類等の選択を開始する。稼働率が
100%の中、作業に追われる日々が続いたが、作業標準を作成しながら
流れを確立し無駄な作業を排除していった

「商品販売」 お客様の立場に立って商品の販売と供給

顧客の声に即時対応を行い、満足度アップに努めた。一時的な商品に
対しては、在庫管理を徹底し、過去のデータを参照に迅速な対応をおこ
なった

青山彩光苑ライフサポートセンター

1. 生活支援・相談支援

(1) 個別サービスの提供

サービス会議によるサービス内容の明確化(3ヶ月に1回)

対象者 116 人 1 ケース 3 カ月ごと実施 述べ実数 458 ケース

相談支援 重点ケースは 6 ケース実施

コンサート鑑賞(単独JR利用体験)・家族交流・自宅外出
施設生活の不安解消 等

(2) 日中活動支援プログラム

作業活動支援

ウエス販売:「エレガントたつるはま」へ定期に納品

地域行事販売:雑巾・梅干・サシュなどを販売

販売は 5 か所(夏祭り・福祉祭り・精育園祭・すみれ祭・障害者週間)
昼食会を年 2 回実施。工賃は 71,912 円/年を支給。

知的支援

運動プログラム(虹の会)による感覚統合支援の継続 対象者 20 名
レクリエーションとして、最終月曜日に、季節を感じる内容を実施

ドライブ支援 水曜日 14 時から 1 時間、3 コースを毎週替。対象者 9 名
障害理解のための勉強会 強度高度障害研修に職員 2 名参加

スポーツ支援

苑内実施:4 種目 各 8 名~12 名の参加

大会参加:風船バレーボール大会(市大会 13 名・県大会 7 名)

七尾市フライングディスク大会 5 名参加

ポッチャ大会（県大会 2名・北陸大会 3名）

県障がい者スポーツ大会 6種目 8名参加

東京パラリンピックへの関心を高める リオのパラリンピック種目の
情報提供としてパラリンピック出場選手の紹介など壁新聞を作製する
余暇支援

アートクラブ：グループで作品を作製 障害者週間に展示

文藝倶楽部：4回/年 4名 詩や俳句を募集、苑内展示 散歩：2回/月 5名

つりクラブ：3回/年 8名 カラオケ：3回/週 28名 足湯：2回/月 13名

くれない太鼓：1回/月（4月～12月） 高階公民館祭りで発表：6名

ふらっとカフェ：(全職種協業)10回/年 リクエストに応えたメニュー

自治会との連携・家族会企画のサポート（相談と協業） 実人数 68名

外出企画 のとじま水族館（20名） のと蘭ノ国（3名）

ファミリーレストラン（19名） 回転すし（26名）

新年会 1月実施 役員の企画重視で取り組む

余暇支援およびその他の外出支援（22企画） 延べ 88名

障害者フェスティバル・青柏祭・よさこい祭り・高階小運動会・花見・
高階地区敬老会・高階保育園夏祭り・プロレス観戦・七尾市港祭り花火大会・
穴水夏祭り・高階祭り・お熊甲祭り・池崎秋祭り・紅葉狩り・高階小学習発表
会・企業バスケット観戦・七尾市福祉祭り・里山里海号体験・映画鑑賞・和倉
足湯・カラオケ（かほくイオン）・美術館・図書館・濱崎あゆみコンサート

ボランティアの活用：濱崎あゆみコンサートへの県外移動補助

水族館への外出（七尾市社協ボランティア）

（3）満足度調査の実施（利用者・ご家族対象）

6月実施。回答数（入所対象 72名 通所対象 37名） 結果は苑内掲示

（4）虐待防止・権利擁護についての意識啓発（全職種協業）

権利擁護委員会：ケアガイドラインに基づくチェック実施

身体拘束解除・不適切ケアへの取り組み

勉強会開催 3講座 延べ 139名参加

2. 健康支援

（1）健康管理

年間行事 健康診断 82人実施（再検及び受診検査の方 12人）

インフルエンザ予防接種 希望者 79人（12月に実施）

罹患者：27人（2/17から 3/22）西館 26人、東館 1人

ノロウイルス罹患者：22人（1/22から 2/10）西館：13人、東館：9人

基本的支援

・カテーテル管理（11人）・排便管理（60人前後）

・経管栄養及び管理（11人）・服薬管理（80人前後）

・受診対応（受診人数 年間延べ 414人 前年度より 14人増）

・受診科延べ人数 654人 前年度より 27人増）

・入院状況（年間延べ人数 79人 前年度より 22人増）

感染予防 10月職員全員に勉強会実施・冬季期間感染強化期間として対応
* 感染流行：対応方法について病院より指導を受け強化。

3. 訓練

- (1) 機能訓練・効果測定 のべ実施人数：8381名(年間)
- (2) 車椅子メンテナンスの実施 (年間2回を実施)
- (3) 福祉用具支援・環境整備支援 依頼総件数(85件) すべて対応(100%達成)
- (4) 疼痛軽減 あん摩マッサージ指圧師の対象利用者 対象人数(12名)

4. 食事支援

- (1) 栄養管理(多職種協働で各種加算関連業務や栄養教育の充実)
栄養ケア・マネジメントの実施 ライフ：84人 リハ：15人
療養食の提供 【療養食加算】 ライフ：51人 リハ：9人
ライフ内訳(糖尿病食11・脂質異常症食32・腎臓病食2・貧血食4・心臓病食2)
リハ内訳：(糖尿病食3・脂質異常症食4・腎臓病食1・心臓病食1)
経口維持支援の実施 【経口維持加算】 ライフ：5人
栄養教育(健康セミナー)11回実施(延べ1757人・リハ163人・通所249人参加)
(元気手作りおやつ教室)8回実施(延べ39人参加)
- (2) 食事サービス(委託業者や他職種と連携し、食事サービス向上を図る)
食事調査の実施や各会議を通して、食事内容の充実を図った
有料特別メニュー 計14回実施(延べ945人利用)、イベント食の実施
- (3) 災害時非常食対応のマニュアルの周知、非常食の管理
- (4) 栄養士間の連携 合同会議や共有フォルダの活用で、業務の効率化達成

5. 職員の資質向上・業務改善

- (1) 各委員会等から発信する勉強会の実施
情報共有シートによる利用者理解(5月~12月) 64名対応
委員会発信勉強会 66名参加
褥瘡予防委員会(2回)・移乗P(3回)感染対策(2回)
権利擁護(12回)リスク委員会(1回) 摂食嚥下(3回)
- (2) 精神障害について理解を深める
専門機関による勉強会 能登病院精神センター職員3名講師 30名参加
- (3) マニュアルの更新
新人教育プログラム：新人教育マニュアルを活用、個人対応の内容追加
福祉用具を導入した介護(リフト・スライディングシート等)
移乗プロジェクトにて移乗方法の確認、福祉用具の必要性を検討する
検討後福祉用具を準備し、静止画や動画作成して周知。
職員対象の腰痛アンケート実施(2回/年)
- (4) 接遇向上
朝夕の申し送り時にロールプレイ実施。年間3回更新
内容：コールの受け方・応対・介助前の声掛け 以上3点を追加し実施

6. 稼働率(年間の平均)

生活介護：120% 施設入所：100% 短期入所：93%

障害者事業局 穴水ライフサポートセンター
穴水ライフサポートセンター

年間利用実績 ()内は前年度比

生活介護(入所) 13,352名 (-1.0%) 生活介護(通所) 2,427名 (+2.6%)
施設入所 18,090名 (-1.1%) 短期入所 2,037名 (-6.7%)

<要因>

- ・ の増については新規利用者4名が増えたため。
- ・ 、 の減については、入院者が増えたため、死亡による退所があったため。
- ・ の減については、長期利用者が入所に移行したこと、感染症流行時期のキャンセルが多かったため。

[各課協業による支援の統一を実践]

ケア・ドライブ委員会を毎月実施、ケア・ドライブのADL・余暇のチェックを実施、担当者間で共有し支援の統一を図る。

精神障害者(ショートステイ)に対し個別の時間を設定し支援

口腔ケアプロジェクトを毎月実施し、支援を継続

経管栄養者の自宅外出支援に喀痰吸引研修修了者を登用し支援を実施2名
入所者の退院カンファレンスを5名実施

心のリフレッシュのための外食支援希望者39名全員実施

[介護・相談・訓練]

1. 作業活動

週5回：参加延べ人数214名、年間工賃支給額254,292円

出店販売：みいの里市、別所岳、穴水駅、青山夏祭り、障害者フェスティバル、
支援学校文化祭、精育園祭、全国老人福祉大会、障がい者週間イベント
食事会実施：一互一笑(16名参加)

- ・ 新規作業：穴水村田製作所より、粘着テープの剥離作業(8/1～)

2. スポーツ活動

風船バレー：69回 延べ876名、ゴロ卓球：45回 延べ534名、ホッパ：37回 延べ185名

大会参加：障がい者スポーツ大会13名、北陸オープンホッパ大会4名、石川県障がい者ライジングディスク競技大会1名、石川県ホッパ大会5名

ホッパ交流会：18名参加(穴水ライフ7名、精育園6名、青山ライフ5名)

3. 余暇活動

外出支援(付き添い外出：17回 延べ55名、外出定期便：10回 延べ20名、
単独外出：延べ21名、家族同行外出：1名)

青山彩光苑夏祭り：8名、長谷部まつり：4名、航空祭：4名

ボランティアの活用(ホッパ：11回 延べ30名、フラワーアレンジメント：9回延べ119名、
ボデマツサジ：8回 延べ109名)

地域活動への参加(震災ボランティア：7回 延べ13名、レクレーション：2回 延べ3名)・
加杖：145名、手浴：170名、足浴：146名、映画上映：79名、レクリエーション：
70名・加杖外出：6名、足浴外出：16名、花見外出：つつじ27名、花菖蒲15名

4. 機能訓練

生活場面での体力テスト(51名実施：機能維持43名、機能低下8名)

本人家族への訓練結果報告(46名実施)

職員の腰痛勉強会(1回実施)

5. 利用者の安定確保

ケアへの報告：報告書にて報告(入所待機者5名、新規通所利用者3名)

地域同行の把握：自立支援協議会専門部会への参加1回

精神障害者(ショートステイ)への迅速な対応(8名)時間を設け会話の中から現在の状況の確認や変化等ないか様子観察し、状況に応じ看護師や現場への申し送りに報告し記録をした。

[健康支援]

1. 健康管理と支援

健康診断：入所利用者51名全員、感染予防のための取り組み

インフルエンザ接種者(入所利用者51名全員)

感染予防対策：11月から3月までの期間、毎日車椅子と手すりの消毒

職員・利用者対象の勉強会の実施(3回)

健康診断結果に対する助言、指導：入所利用者51名全員

末梢循環不全者足浴の実施：対象者2名 165回実施

介護職対象にした緊急訓練：延べ人数44名

喀痰吸引研修修了者への継続した実施者：10名(フィットバックも含む)

[食事支援]

1. 栄養管理と食事サービス

栄養ケアマネジメント 全入所者51名、3ヶ月に1回のサイクルで検討 経口維持加算2名、療養食加算者 心臓病食2名、貧血食3名、肥満食1名、糖尿食3名、脂質異常食15名の計24名

ショートステイ利用者に対する栄養ケアマネジメント 糖尿病食2名、銅制限食1名実施
食事介助による利用者の状態把握(昼食時) 嚥下状態、食事介助、摂取状況の他意見を聴き取るため、平日昼食時に30~60分/日実施

ケアマネジメントをもとに栄養相談の実施 年2回サービス会議に合わせて実施

利用者に対する感染症勉強会 11/24に実施、参加利用者23名

選択メニュー 週5回、ソフト食の提供、行事食3回、季節メニュー14回、特別メニュー19回(うなぎ2回、刺身5回、丼2回など)

誕生日にデザート提供入所48名、通所26名、短期入所利用者6名に提供

<行事>

6/11 屋外食事会：9家族14名、7/30 夏祭り：16家族23名、10/9 バス遠足：利用者20名、11/25 ボッチャ日本選手権観戦ツアー：利用者9名、12/3 障がい者週間イベント：11家族15名参加

<会議、ほか>

リウマチ虐待防止委員会 12回、摂食嚥下栄養ケア委員会 12回、給食会議6回、安全衛生委員会6回、ケアドライブ委員会11回、職員勉強会7回実施

<年間稼働率> ()内は目標

入所 99.2% (98%) 通所 101.1% (95%) 短期入所 93.1% (95%)

障害者事業局 精育園
石川県精育園

1. 利用実績 ()内は昨年比

(1) 本体施設 稼働率 生活介護 99.2%(97%) 施設入所支援 91.8%(93%)

	定員	利用人数	備考
生活介護	130	136名(+2)	7名通所(+2) 1名は生活介護+短期
施設入所支援	130	128名(-1)	4名入所 5名退所
短期入所	併設4名	4名	延べ231日(+27日)利用

(2) 自立ホーム穴水(グループホーム)

	定員	利用人数	備考
各ホーム	16	16	4か所運営

2. 生活介護・施設入所支援

(1) 日中活動支援(月～金・土)

自立支援課(あてのき棟)定員50名 (利用者数54名)

紙工班・・・新規作業(ころ柿の箱折作業)が開始。シーズ的な作業であり通年の作業定着には至らないことが課題であった。

園芸班・・・新規取引先が増え初出荷する。継続することで工賃向上に寄与することができる。工賃支給においては園芸班単独の収支決算により工賃を支給、最高額で半期9万弱の工賃を支給することができた。

なごみ班、いこい班・・・作業の充実が図られ作業内容に定着が図られた。また、いこい班ではニーズに挙げられていた通所の利用者・家族3組のバス外出が実行され家族間での交流ができた参加者からは成果が見られ継続の要望が聞かれた。

生活支援第1課(いぬわし棟)・・・定員42名 (利用者数43名)

個室の確保が困難なためディールームをパーティションで区切り食堂を移動、個室一室を準備した。他者との関係、余暇時間の過ごし方等に課題がある利用者に入室して頂いた。個室を利用することで数日後には落ち着いた生活が送れるようになりまた音楽を聴いて楽しむ時間も確保でき安定した生活が送れるようになった。

各班ごとの活動メニューにおいては、地域のボランティア活動に初参加、また穴水ライフサポートセンターからの紹介で軽作業を紹介してもらい取り組む活動が増えた。障害が重くても主体的に取り組む利用者が増えてきている。

生活支援第2課(くろゆり棟)・・・定員38名(利用者数 39名)

今年度5名の利用者が入退院。退院後のリハビリに作業療法士を中心にチームでアプローチを実施。ほぼ入院前の状態に復帰することができた。またモニタリング会議においては家族の参加(計3回)があり情報の共有、支援の検討がなされ家族を交えた会議の有効性が確認できた。

3. 健康支援

感染症・・・6月にノロ1名 3月にインフルエンザ50名弱が罹患
転倒防止、嚥下体操、便秘体操の実施(健康支援課が主となり実施)

研修の開催 (9/1) 虐待防止研修 外部講師(蓑氏)
(11/7,24) 感染症対策研修 49名参加
(2/24) 誤嚥性肺炎予防における口腔ケア
講師 外部講師 24名参加

4. 食事支援

療養食(30名) 栄養ケアマネジメントの実施(128名)
嚥下プロジェクト 利用者全員の嚥下評価実施
定期的に嚥下評価、支援者 6名

5. 研修

6月15日 救急救命講習会の実施(6・7月)(39名参加)
7月30日 公開講座(座学、風船バレーで交流)24名参加
県内・県外研修参加(延べ88名参加)
ポーター指導(4回)伝達講習会の実施(12回)

6. ボランティア、実習生の受け入れ状況

ボランティアの受け入れ:(延べ138名)
実習生の受け入れ:北陸学院大学より1名 金城短期大学 3名

年間行事

- ・5月 日帰り旅行(棟単位) 石川県障害者スポーツ大会(利用者27名)
- ・7月 バスハイク(棟単位)
- ・8月 未帰省者日帰り旅行 夏祭り(初 日中に実施)
- ・9月 障害者ふれあいフェスティバル(利用者26名)
- ・10月保護者会との共同美化作業(39人) 終了後食事会・施設見学
家族旅行(棟単位) 障害者週間イベント(地域の公園の除草作業65名)
- ・11月 園祭 穴水町文化祭 能登地区施設交流大会(風船バレー大会)
- ・12月 障害者週間イベント(穴水プルート、輪島図書館作品展示等)
還暦祝い(対象者3名)
- ・1月 成人式(1名)
- ・2月 ボーリング大会(場所 クアトロブーム)

7. 相談支援

<相談支援事業所>キララ 3名体制 計画策定数 268件

<自立ホーム穴水>

GH世話人報告会(月1回)GH利用保護者懇談会(5月実施3家族)
日中活動移行支援 1名就労B 就労Aへ

<療育事業> 連携会議(精育園 5回 輪島 1回)

ポーター教室(3か所 実人員35名述べ125回) 保育所訪問12件 学校訪問2件

8. その他

- ・満足度調査の実施(回収率69.6% 保護者会総会にて報告)
- ・広報の発行 年2回(8月、3月)

虐待通報 1件あり・・・調査の結果虐待ではないとの判断に至る

《高齢者事業局 なぎの浦》
エレガントなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

＜生活介護支援・健康支援＞

介護マニュアルを今年度導入した介護キャリア段位制度の評価基準と摺合せを検討。今後、業務の標準化に活用していく。

- 排泄、移動、食事、レクリエーション、ショートステイのグループで、専門的な取り組みの年間計画を作成し実施した。課内会議で進捗報告や検討、適宜、専門分野の発信を行うことで、職員の意識も変わり、サービスの幅が広がった。しかし、課題もあるため、次年度では改善に向けた取り組みを行っていく。
- 食事介助や経管栄養、喀痰吸引を主に介護・看護で連携を図り実施。次年度は、介護・看護でミーティングや合同会議を開催し、協働を推進していく。人材育成（スーパーバイザーの育成）
- 新人職員3名及び異動職員1名にスーパーバイザーをつけて、スーパービジョンを活用した育成プログラムを実施した。計画的な育成によってスーパーバイザー及びスーパーバイザーの育成につながった。
- 介護キャリア段位制度を導入し、アセッサ（評価者）を2名研修に参加し、資格を取得。介護レベルの標準化のため、評価表を人材育成に活用していく。
- 毎月最終火・水曜日に勉強会を年間計画に基づいて実施。また、適宜、伝達講習や実地研修も交えて研修を行った。

Off-JTとして積極的に外部研修に参加し、スキルアップ向上に努めた。サービス担当者会議の開催方法の見直しとして、本来の関係職種が参加しての会議の形態にて開催。今後は、家族参加のサービス担当者会議の開催を積極的に実施していく。

- 関係職種が連携し、ケアプランに基づいた支援では、個別支援の実施が困難であることが課題であったが、個別支援一覧表作成し、業務改善を行い、実施時間を作り、日々支援が実施できるようにした。また、定期的に支援の経過を確認し、課題分析も更に行っていく。
- 在宅のサービス担当者会議に参加し、各事業所間で情報を共有し、統一したサービスが提供できるようにした。
- 共通アセスメントは、ショートステイの利用者に関しては、更新できていたが、入所利用者の更新ができていなかったことが課題であった。次年度は定期的な更新にて活用できるように改善する。
- 受診については、嘱託医と協力医療機関（恵寿総合病院・ローレルクリニック）と連携することでスムーズな受診につながった。健康面についても入院述べ日数994日、平均入院日数18.8日と前年度に比べて減少している。稼働率実績は、特養95.4%（目標98%）、ショートステイ89.1%（目標95%）、ケアハウス97.3%（目標100%）と目標には至らなかった。
- 特養の28年度の退所者数は17名。ベッドコントロールにてスムーズな入所調整に取り組んだが、次の入所まで日数がかかることもあった。次年度は、スムーズな入退所が出来るよう事前準備を徹底する。入退所の口入期間を確

認し、短縮を図る。また、ショートステイ、ケアハウスの営業強化に努める。特養及びショートステイの支援や活動プログラムの充実を図るため、レクリエーショングループによる活動プログラムや個別外出支援、料理支援等の取り組みを実施した。

- ケアハウスでの定期的な「しゃべり場」の設置として、月1回の健康チェックの時間を活用し、栄養管理や日常生活等の相談の機会を設けたが、利用者は少なかった。11月に外部業者による骨密度チェックや健康教室、3月にひな祭りの折り紙教室と茶話会を開催したところ、17名の参加があった。自ら相談等は少ないが、イベント等の企画に参加する交流の場を次年度は、提供していく。

<在宅支援>

利用者様が快適に過ごしやすいように環境整備を行い、業務の改善を実施した。また、介護マニュアルを定期的に見直し、業務の標準化を行った。

- 介護、看護、訓練の協働、連携にて、スムーズな支援を実施した。介護キャリア段位制度は、アセッサ - (評価者)研修に派遣できず未導入。毎月最終火・水曜日に勉強会を年間計画に基づいて実施。また、適宜、伝達講習や実地研修も交えて研修を行った。

Off-JTとして積極的に外部研修に参加し、スキルアップ向上に努めた。居宅事業所及び地域包括支援センター等との連携については、サービス担当者会議に参加し、利用状況等の連絡を密に行い、情報共有を行った。

- ケアプランに基づき、通所介護計画書を作成し、機能訓練や介護支援、余暇支援等を計画に基づいて実施した。

稼働率実績は、83.6% (目標 85%) 標 100%) と目標には至らなかった。

- 在宅サービス部門での利用コントロールについては、和光苑デイケアからデイサービスへの移行は2名。営業は、居宅支援事業所及び病院を中心に訪問する。

余暇支援等のサービスの充実として、身体を動かすレクリエーション、手作業、制作を中心に行うレクリエーション、脳トレ等を利用者のニーズに応じて提供。

- 月2回程度、ボランティアによる踊りや歌等の慰問を依頼。クッキングクラブでは月1回、おやつ作りを行った。入浴では、変わり湯を実施。今後も利用者ニーズに応じたプログラムの企画等を実施していく。

<食事支援>

勉強会の開催 - 食中毒 6/28.29、非常食 7/26.27、摂食嚥下 1/24.25 実施

- 外部勉強会 能登NST合宿、各栄養士会主催の研修、いちご会等参加食事に関することを新人職員に説明 (4月入職時)
- 栄養士業務マニュアル作成
- 委託業務との連携：確実な食事提供、感染症など衛生管理の徹底、災害時の対応指導

摂食嚥下評価の多職種参加 (歯科衛生士による評価も含める)

- 共通アセスメント内のショート・デイ等各事業所の食事内容の統一について、他事業所利用時に随時確認
- 電子カルテ内で栄養アセスメント管理を実施し、多職種が共有
特養目標加算：療養食加算 65% 61% (56名) ...3/31 現在
低ナトリウム血症にて、塩分制限が解除となるケースが増加したため減少
経口維持・移行加算 35% 38% (35名) ...3/31 現在
- デイサービス：栄養改善加算 (1ヶ月2回を限度で1回150単位) 平均5名
実施できず。説明書類など作成。スクリーニング資料作成時、身長など必要事項の不足あり。デイサービスとの連携にて作成できる流れを作っていく必要がある
- 物品管理 毎月の使用状況の確認。1月～補助食品など施設払いに変更となり、業者に見積もりし直し、過不足のない食事内容に調整している
イベント食や選択食の提供 (デイサービス)
流しそうめん 7/25～31、焼きたてパンの提供 3/24.27
デイおやつ作りの相談・補助 6～3月/回
- 特養・アンジェリィ・デイ利用者と料理や盛り付けを行い、楽しみの提供
特養 流しそうめん 8/2、すし (ソフト食も含む) 11/24.25、スイートポテト 10/27、恵方巻 2/2、桜餅 3/16
アンジェリィ 揚げたて天ぷら 1/28
- 月2回喫茶実施 - 家族やより多くの方が交流できる場とする
特養の利用者が増加し、月2回では1回の利用が大人数で対応しきれない状態になっているため、利用回数の検討が必要。家族も参加されている。

< 機能訓練 >

特養の機能訓練加算、短期入所の個別機能訓練加算に対応する評価、訓練の実施

- 利用者様に適した車椅子の見直し、車椅子の番号整理。汚染等で車椅子を洗うとそのまま戻さないことが多く車椅子が変わったまま使用されていることが多く見られたため、改善が必要である。
新入職員への指導は、新入職員の経験・知識に応じて移乗・移動に関する指導を実施。
- 国際医療福祉専門学校の評価実習1名の受け入れを実施
移乗グループとして、トランスファーボードの使用方法を学び利用者や職員に負担の少ない移乗介助を評価した。しかし申し送りが上手くいかないこともあり、統一した移乗とまではいかなかった。
- 高齢者事業局の機能訓練のフォロー (評価・訓練指導・相談等) として、エレガントたつるはま、ふれあいの里で機能訓練に関するフォローを実施。
短期入所個別機能訓練加算は、昨年度算定していた利用者の入所や中止が多

く、今年度は件数が減少。

在宅支援と連携し、マッサージ師の専門性を活かす取り組みとして、オイルマッサージ等を計画していたが、調整できず未実施。

< 事務管理 >

- 浴室内のリフト浴設備を更新。
- ボイラー設備等に特殊燃焼装置を設置。燃焼効率の改善による燃料使用量の軽減を図る。
- 事務書類の年度締め及び保管整理の実施。今期、高齢事業局とし会計に係わる事業所の未収管理を強化し、過去も含め未収処理業務の明確化を図る。
- 10月より、けいじゅのリモートシステムが「楓」として更新される。けいじゅサービスセンターとの連携によりスムーズな業務の遂行を図る。

《高齢者事業局 たつるはま》 エレガントたつるはま

介護キャリア段位制度（厚生労働省 介護職員資質向上促進事業）導入。評価者（アセッサー）として1名の講習の受講は終了。レベル認定申請中ではあるが、変則勤務で被評価者と勤務が合わないことや、人員不足等で業務優先となり評価ができないということが現状としてある。

- 介護チーム制(口腔・嚥下、排泄、入浴、移乗)を編成し、専門性の向上や職員が介護される体験を通じた勉強会、外部研修等を実施。声掛け不足による不安や恐怖心等の利用者の立場でお互いに体験し合うことで日頃の自分の行っている介護の振り返りを行う事ができた。各チーム其々の課題があがっている為、今年度の体験を活かしての次年度の取り組みに活かしていく。体験に関しては、新人・異動職員のプログラム終了後に、通所が行った高齢者疑似体験も含め合同勉強会を行っていく予定。
- 本体施設との連携は、相談業務を中心に実施。双方のサービス会議に出席して、進行方法や書式を統一。今後は契約時、入所申込み等の確認事項の統一を進め、介護職員等の交流研修も行い、サービスの標準化を図る。

入所での畑支援及び通所介護と合同での畑支援交流を実施。通所介護においても田鶴浜地区の利用者が多くいる為、会話が弾む光景も度々見られた。畑支援で収穫した野菜を使用しての調理支援を実施したが、おやつ作りなど経口摂取が可能な利用者が摂取できる食形態に検討するとレポートリーが少ない為、今後は工夫や検討が必要である。

- アットホームな雰囲気作りとして、施設内の掲示等の使用する色を考慮し、居室内の各利用者の写真を飾る等の環境を整えた。
- 家族参加の外出はアンケートの実施により、家族の方に合わせた配慮を行い

- ながら個別支援を実施。家族の意向に沿った支援展開を今後も継続していく。
- サービス会議は、20 家族 40 回の実施。家族からの情報より、利用者各個人の理解も深めると共に支援に繋げることも多くなった。次年度は、意思疎通可能な利用者様の参加の会議を行い、より充実した支援に繋げていく。

通所介護と合同で、田鶴浜地域において交流館等に出張し、健康教室を開催。事前に地域の方にアンケートを行い、要望に応じた内容で実施。前期は、5ヶ所で 56 名、後期は 2 ヶ所で 22 名の参加があった。事前にアンケートを行い、興味のある内容であったため、好評で、既に次年度の開催を依頼されている。

年間平均稼働率は 95.9%で、目標値 99%達成に至らなかった。入院の影響が大きく、入院中のベッドをショートステイ利用に繋がらなかった。空床利用であるため、タイミングが合わない事も多い現状がある。通所利用者でご家族に介護負担等みられた際にショートステイを提案。3 件の新規利用があった。

デイサービスセンターもみの木苑

- キャリア段位制度導入。アセッサー講習の受講は終了し、レベル認定申請中ではあるが、人員不足により評価の実施は順調ではないことが現状である。
- 高齢者疑似体験については、高齢者の身体状況の理解することで、声掛けの方法やリスクを予測しながらの対応の必要性、自分の介助方法を見直す良い機会となった。体験については、今後、入所と合同の勉強会を実施していく。
 - 入所へ介護技術向上を目的とした交流研修を 1 名実施。観察ポイントを踏まえ、個別の対応を理解し向上は図れた。協力体制強化の目的もあったが、体調不良で休職することとなり、体制強化には至っていない。
- いいもん作らん会(田畑支援・制作支援・調理支援)は、一部の利用者だけでなく、内容的に少しずつ全体の支援へ拡大し、利用を楽しみに利用される声も聞かれる。試行的に介護支援ボランティアを活用し、活動を楽しみながらされる方に絞り次年度は取り組んでいく。
- 温泉週間については、アンケートの結果 8 割の方が満足されているという結果であった。快適空間の提供として、日本庭園風に改装したことは男性利用者に、庭園の季節の花の設置は女性に大変好評であった。変わり湯に使用する物も田畑支援を活用して取り組んだが、上手く繋げることができない物もあった為、次年度は計画的な実施を行っていく。

健康教室の開催は、前年度の反省から講義だけではなく実際に頭や身体を動かす内容としたことや外部講師の活用等大変好評であった。健康志向の強い教室には看護師同行を行っているが、毎回は困難な現状。小規模開催ではあ

るが、疾患等健康面についての詳細な返答は出来ないこともある為、出来る限り看護師同行の開催を行っていく。

- 地区社協と連携し、介護支援ボランティアの受け入れも行っている。外出支援時や苑内での支援にも活躍中である為、今後も受け入れを継続していく。平均 89.8%の稼働状況で、93%の目標値の達成に至らず。前半は好調であったが、複数回利用者の入院や越冬を目的とする入所及びショート利用も大きく影響した。新規事業の PR を含めた営業活動の実施と共に、曜日の特徴を把握したコントロールを行い、新規獲得を目指す。

高齢者事業局 ふれあいの里 ふれあいの里

1. 通所介護事業

延人数 9960 名、稼働率 75.3%(平成 27 年度比 285 名減、2.3%減)

サービスプログラムの健脚教室、脳トレーニングがケアマネージャー事業所及び家族等に周知され、新規利用者数が前年度比で 17%増となった
認知症加算の算定に必要な職員を 1 名育成、次年度以降も継続して育成する

利用者情報と提供サービスのグループ内共有、高齢者事業局事務部門の業務共有化

- ・新規事業（基準緩和通所型）説明会（4 事業所）
 - ・事業所情報誌の配布（居宅介護支援事業所向け：9 月～3 月）
- チャレンジ
- ・チャレンジシートを活用した恵寿フィロソフィの実践：12 名
 - ・けいじゅグループ内勉強会（認知症研修）への参加：9 名

2. 訪問入浴介護事業

延人数 1076 名（平成 27 年度比 120 名増）

- ・ターミナルケアの利用者は既存の上限枠 6 件を超えた受け入れを実施（最大 7 件）

居宅介護支援事業所に向けて空き情報や待機者数を、広報誌を通して周知していくことで、新規利用者の紹介に多く結びついた
事業所情報誌の配布（居宅介護支援事業所向け：9 月～3 月）

3. 配食事業

延配食数 24253 食（平成 27 年度比 964 食減）

配食数減を補う収益増に向けた取り組みを実施

- ・不採算エリアの見直し実施（東湊地区及び田鶴浜地区の廃止）
- ・H 2 9 年度より午前便の効率化を図るためのルートの見直しの実施

配食試食会（居宅介護支援事業所：9 事業所）

安否確認の実施により、必要に応じて体調不良者の家族や担当介護支援専門員に連絡調整を実施

配食ネットワークを利用した広報活動

- ・グループ内パンフレット及びチラシの配布とサービス斡旋

高齢者事業局 ローレルハイツ恵寿
ローレルハイツ恵寿

【ケアハウス】

特定（30床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数	34	32	33	32	30	33	32	31	33	31	31	33	32
稼働率(%)	98.4	100	99	99.4	100	99	100	99.6	100	100.1	100	100	99.6

一般（20床）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数	21	20	21	20	21	21	22	20	20	20	20	20	20.5
稼働率	98.3	100	98.3	100	97.3	100	100.1	100	100	100	100	100	99.5

毎月満床とし、補助金は満額を確保。特定の稼働率は入居と退去の間隔が空かないよう調整しながら平均99.6%とした。

併設クリニックは、医療連携加算の取得もあり、1回/月状態報告を行っている。毎月の医療連携加算は平均26.5名。

食事はマンネリ化にならぬよう季節に応じたイベント食を開催、提供してきた。（山菜天ぷら、握り寿司は大好評で大変満足されていた）

ローレル新聞を作成し、家族や入居の方々には喜ばれた。

介護キャリア段位制度の評価者研修に1名参加。取得。

【サ ビス付き高齢者向け住宅】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数	42	38	37	41	39	44	39	41	41	44	45	43	41.2

入居率93.9%（年度末）と、目標を達成。

6室のVIPは、1室入居（2名）され、目標達成。

4階は6月から満室をキープしてきた。

【ヘルパーステーション ローレル】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人数	116	117	111	109	116	118	118	124	122	120	124	121	118

今年度の新規は35名獲得。実人数平均118名。内、ローレル館内の契約者は25名。（62.5%）目標の50%を超えた。また、昨年より30%強UP。

コースの見直し、シフトの工夫で平均5.5時間/人の支援を行う。

毎月1回、マニュアルの検討会を行い、より良いサービスに努めた。

外部研修に4名参加。伝達講習にて情報の共有を図り、サービスの向上に努めた。

事務局
健康増進センターアスロン

1. 利用状況

利用区分	H27 年度利用者数	H28 年度利用者数
会員利用	91,700 名	79,360 名
ビジター	37,126 名	28,460 名
その他	6,932 名	5,892 名
合 計	135,758 名	113,712 名

* 今年度は、営業時間の短縮（2 時間）と毎週水曜日の定休日、また回数券の改定により利用者へのサービス低下となった。

平成 29 年度は、営業時間の延長とトレーニングジムのリニューアル（トレーニング機器）と新料金体系に取り組み、平成 28 年度に減となった利用者数を取り戻したいと考える。

2. 会員数の変動（人数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
H27	538	541	544	533	520	524	523	526	526	532	534	537
H28	525	530	525	518	515	515	514	516	506	495	498	498

* 今年度は、下半期に平成 29 年度への会員利用料金の値上げや会員利用料金の徴収方法変更（口座振替に変更）の周知により会員の不信感が高まり会員数の減少がみられた。平成 29 年度は、会員数 3 割減を最低ラインと考え徐々に平成 27 年度の会員数へと近づけて行きたいと考える。

3. 教室参加者数

教室種別		H27 年度参加者数	前年度比
レッスン	プール	6,189 名	91.7 %
	スタジオ	3,456 名	88.5 %
Jr スイミング		1,496 名	87.2 %

* レッスン数（プール・スタジオ）に関しては平成 24 年度からは同本数で行っている。プールのレッスン参加者数は増加傾向にあるが、スタジオのレッスン参加者数は伸び悩んでいる状況である。

* Jr スイミングは平成 27 年度より本数の削減・時間の変更を実施した。また、平成 28 年度は参加料金の値上げを試みた。メンバーの減少はみられるが今までと同様、丁寧な指導を心がけメンバー増を目指す。

4. 外部教室実施状況

転倒・介護・認知予防	七尾市	3 回
	中能登	2 回

介護 2 次予防事業	七尾市（1クール）	12 回
	中能登（2クール）	24 回
保育園（たんぼぼ・つくし・こすもす・さくら）		23 回
はつらつ健康教室（ゆうゆう・天平）		22 回
その他		1 回
合 計		87 回

*今年度も平成 27 年度に引き続き館内教室の指導・サービスの充実のため外部教室の本数を抑え、取り組んだ。

平成 29 年度も外部教室の本数は館内教室の指導・サービスの充実のために調整する考えであるが、平成 29 年度より新規事業として七尾市介護予防・日常生活支援総合事業を実施する運びとなった。一人でも多くのご利用者様に運動提供できるよう取り組みたいと考える。

5. 人員配置の状況

役 職	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年	H28 年
施設長	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名
事 務	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名
フロント	2 名	2 名	3 名	3 名	3 名	3 名
トレーナー	7 名	6 名	6 名	5 名	5 名	5 名
機械設備管理	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名	1 名
清 掃	8 名	8 名	8 名	8 名	8 名	7 名
合 計	20 名	19 名	20 名	19 名	19 名	18 名

6. その他、経営・運営に関わる取り組み

*灯油・備品・消耗品発注に関しては、複数業者の見積りにて選定する。

平成 29 年度は、エコバルブの設置により、年間の水道量の削減につなげたいと考える。

総 務 部

1. 労務管理

給与明細のデジタル配信 H28.6 より実施

マイナンバー管理 H28.12 より実施

ストレスチェック制度導入 H28.9 実施

勤怠システムの管理者による権限の設定 穴水地区施設の実施

制服のレンタル化(介護、看護、技術職) H28.4 より実施

2. 求人活動

各種就職フェアの参加7回

- インターンシップの参加1回
- 徳充会単独説明会(新卒)1回 (中途)2回
- 3. 健康づくり・保健衛生
 - 労働環境整備、環境衛生(安全衛生委員会活動) 毎月実施
- 4. 研修の企画(職員の資質の向上)
 - 職員研修 新人フォローアップ研修実施(H28.9)、接遇研修実施(H29.3)
- 5. 事業関連
 - 青山ライフ東館 防水及び空調工事の実施
- 6. ボランティア及び地域貢献に関すること
 - ボランティアの活用と情報管理、法人・各事業所と地域との連携支援
- 7. 広報(ホームページの管理及び充実、広報の充実)
 - ホームページリニューアル
 - けいじゅヘルスケアシステムとの連携(広報、福利厚生)
- 8. 施設管理
 - 各事業所の管理業務の総指揮と随時対応
 - ローレルハイツ恵寿の管理業務(週3回)

経営企画部

- 1. 会計業務
 - (1) 一括支払、各種支払のインターネット決済利用(手数料のコスト削減)(4月)
 - (2) 職員出張費の支払い方法の変更(口座振込可能)(4月)
 - (3) 会計外部研修参加(専門知識の習得・スキル向上)(6月)
 - (4) 未収管理の徹底(毎月)
 - (5) 予算に対する実績と予算流用管理(毎月)
- 2. 社会福祉法人制度改革への対応準備
 - (1) 財務規律の強化(会計監査人受入への準備)(7月~)
 - (2) 余裕財産のシュミレート(2月)
 - (3) 経営組織のガバナンスの強化(2月)
 - (4) 新制度の勉強会セミナーへの参加(7月、11月)
- 3. 理事会・評議員会
 - (1) 理事会・評議員会開催(3回開催、5月、2月、3月)
 - (2) 役員改選(理事・監事)(5月)
 - " (評議員)(3月)(社会福祉法人制度改革に伴う改選)
- 4. 定款変更・法人登記手続き
 - (1) 法人資産総額変更登記(5月)
 - (2) 社会福祉制度改革による定款変更(2月)
- 5. 指導監査の準備及び対応

- (1) 事前提出資料の準備及び実地監査の準備など
- (2) 実地指導：穴水ライフサポートセンター、エレガンテナぎの浦(10月)
- (3) 書面監査：石川県精育園、青山彩光苑、支援センター、ワークセンター、エレガンテたつるはま、ローレルハイツ恵寿(1月)

アドボカシー室

1・相談等件数

	利用者	職員	一般
相談件数	11	2	1
	直接	電話	その他
相談方法	1	13	0

2・苦情件数(19件)

3・まとめ

職員の衣類の臭い(洗剤、柔軟剤の臭い)で体に反応が生じるとの声があり、対応する職員を限定し対応するケースがあった
 その他、意見の中には設備面の意見があり事業所側としては早期に対応することができ利用者の方々にも大きな支障もなくサービスを提供することができた

教育研修委員会

【目的】職員の資質向上

【委員】畑中 細木 池田 瀧野 藤井 内田 松下 江沢 芳原
今寺(顧問) 山下(顧問)

【実施内容】新制度への対応

アンガ - マネジメントの実践(トレーニング)研修

【開催回数】4回(6月29日、8月30日、11月2日、12月14日)

【結果】

- ・職員にアンガーマネジメントの理論を伝えることができた。
- ・参加人数は休日に自主的に参加した人数としては評価できる。参加姿勢も積極的であった。

【研修実施日】

- ・11月5日(土) アンガ - マネジメントセミナー研修 参加者 67名

【今後について】

- ・ストレスチェックの結果とアンガーマネジメントを連動させなくても、別なものとして研修企画する考え方もある。
- ・労働基準監督署から法人として、メンタルヘルスに関連した研修を実施する姿勢は評価でき、今後も継続してほしいとのこと。次年度も委員会企画研修として取り入れてもいいと考える。

福利厚生委員会

趣旨、目的

職員へのリフレッシュ、職員間での親睦が図られること

委員メンバー

三野(委員長:エレなぎ) 中村(副委員長:青山リハ) 武田(事務)

畑中(ローレル) 山崎(支援セ) 宿谷(青山ライフ) 坂尻(穴水)

雲田(もみの木) 山本(精育園) 因幡(ワーク) 谷口(ふれあい)

茅崎(アスロン) 芳原(顧問:ふれあい)

活動内容

【各事業所への行事助成金】

- ・助成予算額:637,500円(職員425名分)
- ・実績額:369,000円(246名分)

【行事・旅行企画】

	法人予算	実施日	参加人数 (内、家族)	自己負担	法人負担
東京・TDL	800,000	H28.12/10.11	41(10)	1,120,000	756,120
草津	800,000	H28.11/26.27	32	465,000	731,720
BBQ	160,000	H28.10/9	45(15)	0	128,558

委員会開催状況

	開催日	出席人数	議題内容
第1回	H28.6.8	9名/13名	1.各事業部への行事助成金の取り扱いについて 2.昨年度の活動報告及び今年度の事業予定について
第2回	H28.7.5	11名/13名	1.旅行先について 2.今年度レクリエーションについて
第3回	H28.8.2	8名/13名	1.予算計画 2.レクリエーション企画について 3.旅行企画について
第4回	H28.9.7	11名/13名	1.各企画の参加希望状況について 2.イルカ、BBQ、釣り企画について
第5回	H28.10.2	8名/13名	1.レクリエーション企画について 2.旅行企画について
第6回	H28.12.14	8名/13名	1.旅行企画について 2.レクリエーション企画について

○今後の方針と課題

今年度、年度初めに福利厚生企画に対して全職員対象にアンケートを実施し、その結果を基に旅行等、行事企画実施した。旅行企画に関してはいずれも好評で、早々に募集人数に達し、旅行実施後も次年度も開催してほしいとの声が多く聞かれた。前年度まで毎年行われていたボーリング大会については、実施予定日が事例発表大会当日だったが、今年度は場所の確保が出来ず(予約でいっぱいだった)企画していたものの開催できなかった。ボーリング企画については低予算で実施でき、参加人数も多いために今年度実施できなかった分、次年度に期待する声も多く聞かれたことから、早めに企画し場所の確保をすることが望ましいと思われた。

事例研究大会

日時：平成 29 年 2 月 25 日（土）8 時 45 分～12 時

委員：船山 松柳 青井 須鹿 池田 濱谷 赤尾 西村 船山 松本

顧問：池田

場所：青山彩光苑

目的：発表を通して自身の支援を振り返り、他者の発表を聞く事で支援に対する知識を深め、職員としての資質向上を図る。

大会テーマ：備えよ常に!! ～すばらしい人生を送るために～

委員会開催日時：

第 1 回 平成 28 年 8 月 23 日 大会要綱に関する事項、事例選出について

第 2 回 平成 28 年 10 月 11 日 座長、PP 勉強会、アンケートについて

第 3 回 平成 28 年 12 月 13 日 当日の対応、勉強会、事例収集方法について

第 4 回 平成 29 年 2 月 13 日 役割分担、冊子の印刷について

平成 29 年 2 月 24 日 大会会場準備

第 5 回 平成 29 年 3 月 14 日 反省会・アンケートまとめ

提出事例数：238 事例（36 事例発表、202 事例紙面発表）

大会参加者：182 名（委員(10 名)を除く）

表彰事例：

障害部門

【最優秀賞】

頼られる職員となるために ～相談員としてあるべき姿～

青山彩光苑リハビリテ ションセンター 久保奈保

【優秀賞】

始動！青山ライフ移乗プロジェクト ～持ち上げない介護を目指して～

青山彩光苑ライフサポートセンター 近藤由香理

【苑長賞】

笑顔の溢れるホームページを！ ～日本でいちばん、楽しい福祉施設へ～

本部事務局 山下靖一郎

高齢部門

【最優秀賞】

年賀状を作ってみよう ～グループ支援より～

エレガントなぎの浦 宝達寿希也・堀雅季・山本順子

【優秀賞】

貰ってうれしいポイントカード ～参加意欲・自主性を高める～No, 2

ふれあいの里 谷口美帆・竹中彩乃・久保由美子

【苑長賞】

食事介助が安全・安楽に行えるために

～チームとして職員の不安と向き合う～

エレガントたつるはま 鎌上綾・幸田恵・橋本裕子・尾坪和子

<今年度新規取り組みについて>

董仙会の職員に座長を依頼し4名が参加

大会当日の全参加者を勤務として開催

アンケートの内容、回収方法の変更

選出事例数の見直し

課毎の選出をやめ施設毎に選出数を設定

ローレル2 3、穴水ライフ6 5

事例作成、選出に大まかなポイントを設定

「単年度方針・事業所年間テーマ・新規取り組み」

パワーポイントの勉強会を開催(計6会場 67名参加)

- ・アンケート内容の見直しと回収方法を変更したことにより事例研究大会に参加していない職員からの意見も併せ、多数の意見を得ることができた。
- ・事例作成・選出に大まかなポイントを設定する場合は早期の周知が必要であった。
- ・パワーポイント勉強会は来季も希望する声が多かったが内容は初心者向けであったため継続していくには内容の検討が必要である。
- ・董仙会の座長については「新鮮」「よい刺激」などの意見が多く、今年度は「高齢部門に限った参加」であったが発展させていきながら来年度も継続できれば良いのではないか。

<事例に関して>

- ・評価表の内容についての見直しが必要ではないか。
座長を務めた方から「どのように評価してよいか分からない」「書式的な要素が多く、支援の内容についての評価ポイントを多くしてもいいのではないか」「本来の取り組みに着目して評価できるような評価表が必要では」との意見があった。平成27、28年度は座長が12名に増え課長、主任、董仙会職員の方と幅広い方が担当することにより問題が明確化されてきたのではないか。
- ・発表7分質疑応答7分の時間設定では発表する時間が短すぎるとの意見があり、発表時間の変更、発表事例数の見直しなどの検討が必要ではないか。

<大会運営に関して>

- ・多目的ホールは座長、発表者、質問者用に3本マイクの準備が必要である。
その他の会場も騒音対策としてマイクがあればよいのではないか。
- ・他会場の発表の妨げになることがないよう騒音対策が必要である。
- ・研修室は座長席、発表席の両方に手元を照らすライトが必要である。
- ・感染症予防の取り組みとして今年度は受付にて手洗いの呼びかけ、消毒液の設置を行った。感染症の流行時期での開催について疑問を持つ意見があり、更なる対策を講じていく必要がある。

平成28年度 各施設実績一覧

<地域活動支援センター(さいこうえんの障害者生活支援センター)>

【地域活動事業】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	4863	405.3			
稼働率		91.4	85	107	104

【就業・生活支援センター】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	20	1.7	25	80	100
稼働率	35	2.9	25	140	125

<青山彩光苑リハビリテーションセンター>

【機能訓練】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	9,666	805.5			
稼働率		93	105	88	86

【施設入所支援】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	6,123	510.3			
稼働率		42	50	84	73

<ワークセンター田鶴浜>

	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	8,435	702.9			
稼働率		82	82	100	108

<青山彩光苑ライフサポートセンター>

【生活介護】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	25,902	2158.5			
稼働率		120.4	122	98.6	99.1

【施設入所支援】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	29,254	2437.8			
稼働率		100.1	102	98.3	99.2

【短期入所支援】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	2,404	200.3			
稼働率		93.7	85	110	106.2

<穴水ライフサポートセンター>

【生活介護(入所)】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	13,352	1112.7			
稼働率		99.2	98	101.2	97.0

【生活介護(通所)】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	2,427	202.3			
稼働率		101.1	95	106.4	102.6

【施設入所】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	18,090	1507.5			
稼働率		99.1	98	101.1	97.6

【短期入所】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	2,037	169.8			
稼働率		93.1	95	98	93.0

<石川県精育園>

【生活介護事業(入所・通所)】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	34,664	2888.7			
稼働率		99.2	97	102.2	99.6

【施設入所事業(入所)】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	43,586	3632.2			
稼働率		91.8	93	98.7	99.1

【共同生活援助事業】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	5,669	472.4			
稼働率		98.6	100	98.6	103.3

＜エレガントなぎの浦・アンジェリなぎの浦＞

【介護老人福祉施設】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	32,067	2672.3			
稼働率		95.4	98	97.3	101.4

【短期入所生活介護】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	4,225	352.1			
稼働率		89.1	95	93.8	104.9

【ケアハウス】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	10,656	888.0			
稼働率		97.3	100	97.3	100.8

【通所介護事業所】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	9,764	813.7			
稼働率		83.6	85	98.3	104.6

＜エレガントたつるはま＞(空床利用型短期入所生活介護含む)

	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	8,723	726.9			
稼働率		95.9	99	96.8	99.1

＜もみの木苑＞

【通所介護事業所】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	7,898	658.2			
稼働率		89.8	93	96.6	96.8

＜ふれあいの里＞

【通所介護事業所】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	9,960	830.0			
稼働率		75.3	90	83.7	97.2

【訪問入浴介護】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	1,076	89.7	90	99.6	112.5

【配食事業】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	24,253	2,021	2500	80.8	96.2

＜ローレルハイツ恵寿＞

【特定ケアハウス】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	385	32.1			
稼働率		99.6	100	99.6	104.5

【一般ケアハウス】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	246	20.5			
稼働率		99.5	100	99.5	100.2

【サービス付高齢者向け住宅】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	494	41.2			
稼働率		75.8	80	94.7	151.6

【ヘルパー事業】	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
実績(利用者数)	1,416	118.0	119	99.1	103.5

＜健康増進センターアスロン＞

	年間合計数	平均	目標	目標達成率(%)	前年比(%)
入場実績	113,712	9476.0	10000	94.6	83.8
会員数	6,155	512.9	530	96.7	96.5